

平成23年度

## 第2回中央区環境行動計画推進委員会

日 時 平成24年1月30日（月）14:00～15:51

場 所 中央区役所 別館6階A会議室

### 【議事の概要】

#### 議題(1)「中央区環境行動計画事業等の進捗状況」について

##### 「中央エコアクト」(中央区版二酸化炭素排出抑制システム)

##### 〈委員からの意見等〉

- 認証数が、到達目標に及ばないような感じが有るので、インセンティブのつけ方なども含め、対応策を講じる必要がある。
- 中央エコアクトの取り組みは認識されてきており、家庭での参加申し込みは増えているが、省エネの取り組み結果を区に提出する手続きが億劫で、認証まで至らないのではないかと。
- 認証数が伸びないことは、行政として良い印象は与えないし目的を達成しているとは言えない。参加者は増えているので、最後の認証まで到達できるしくみが必要である。
- 認証にランクを付け1週間でも2週間でも省エネに取り組んだ場合に認証を与え、段々ランクを上げて認証するような工夫が有っても良いのではないかと。
- 事務担当からの連絡と認証を受けて得られる効果的なメリットの設定により、認証数が上がって行くのではないかと。イベントでの呼びかけは成功し参加者は増えているので、フォローとしての連絡を取る。そのように取り組んでも認証までに至らなければ、もう少しメリットを感じられるような方策を考えることも検討する必要がある。
- 認証を受けることで得られるメリットが、経済的なメリット中心になっている。もう少し区民の方にプライドを持っていただけるようなメリットを検討してはどうか。
- 家庭での取り組みを推進する方法として、学校を通じ家庭での省エネのアイデアを生徒から聞かせて貰ったり、認証を受けた方からも取り組んだ中での工夫などを聞くことにより、様々な取り組みに関するコメントが貰えるのではないかと。
- 新たに整備される環境情報施設でも、認証を得られた方たちが積極的に関与し、そこで活動出来るようなことが望ましい。開所式にお呼びするなど区の取り組みに関与してもらい、自ら発言出来るようなメリットも必要である。

##### 〈区の回答〉

中央エコアクトでは、認証が受け易いよう取り組み期間の短縮や広報をしてきているが、参

加者が認証にまで至るよう引き続き連絡を取り、参加者のメリットを工夫するなど認証を受けられる方が増えるよう努める。

### 「エコアクションポイント」

#### 〈委員からの意見等〉

- エコアクションポイントは、区民の方たちがもっと使い易くなり、品物との交換などにつながるよう効果的に周知してほしい。
- エコアクションポイントを貰っても、実際に使われないケースが有る。中央区ならではの商業地域とタイアップしたテストケースとして、スーパーの買い物券や中央区の買い物補助券などを提供することが出来れば、もっと効果的な取り組みになるのではないかと。
- 企業側の協力が得られれば、企業の協力とかCSRとかを絡め、企業にもメリットが有るしくみとして考えられる。

#### 〈区の回答〉

引き続きエコアクションポイントの制度を周知していく。また、運営するJCBでも新しい企画の開拓をしているので、これから取り組みが広がることを期待している。

### 「中央区未利用エネルギー調査」

#### 〈委員からの意見等〉

- 未利用エネルギーの活用では、従来の賦存量、利用可能量と言う視点だけでなく、震災等非常時に少しでもエネルギー供給を確保するなど、防災等の側面からも考える必要がある。
- 新たに検討するエネルギーシステムでは、方向性を明らかにしながら新しさを出し、エネルギー施策を通じた環境に関するアピール効果なども含め区民の方に訴えていく。調査結果をまとめて公開することで、ほかの自治体などでも参考になるところが出てくるのではないかと。

#### 〈区の回答〉

新しいエネルギーシステムを考えていく際、防災面の視点も入れ、具体的システム構築に向け検討していく。

### 「中央区版環境マネジメントシステム」

#### 〈委員からの意見等〉

- 環境マネジメントシステムの取り組みを第三者に検証してもらう方策として、例えば中央エコアクトの認証を受けられた方や地域の環境に関心を持つ区民などの参加により実施するのも良いのではないかと。ボランティアでも協力する姿勢を持っていると思うし、第三者の検証が必要じゃないかと思っている。
- システムの実効性を確保するという視点からは、言葉は悪いが、第三者の「監視」というのが非常に重要である。その事業を成長させることにもなるし、事業全体がもっと効率良く、もっと高度に進展して行くのではないかと。また、区民の方の中でも環境に関心を持っている方には行政側から接触を図り、事業の検証などの役割をお願いしていくという姿勢も大事である。

〈区の回答〉

環境マネジメントシステムでは、昨年10月から運用を開始したばかりなので運用状況を観たうえで、第三者による外部審査を取り入れることについても検討したいと考えている。

## 議題(2)平成23年度主要事業の報告

### 「エコタウン構想(案)」

〈委員からの意見等〉

- エコタウン構想は、短期、中長期と言った取り組みの期間や事業の大きさなどから体系的な整理が必要である。

中長期の取り組みでは、実現性や具体性がどの程度有るのかを吟味したほうが良い。

- プロジェクトの「日本の玄関口に相応しい魅力あるまちづくり」のところでは、中央区の特徴である、企業で働いている方、東京駅を通過する多くの人達にも具体的に進めるに当たり積極的に訴えるチャンスが出てくる可能性がある。

同様に都市型エネルギーの利用でも日本の玄関口として、どのように企業などを協力者として巻き込んで行くかという視点が必要である。

- ハードのほうに偏っているような整理になっており、運用上は人が関与する部分が非常に多いことから、ソフト面への配慮も重視する必要がある。

〈区の回答〉

これから策定するエコタウン構想では短期の取り組みと中長期の取り組みを整理している。

特に東京駅前地区では企業の環境への取り組み気運が高まりつつあるので、企業のアイデアを生かすことが出来るよう、地域の中で話し合いの場を設けていく必要があると思っている。

### 「中央区の森環境ふれあい村構想」の取り組みについて

〈委員からの意見等〉

- この事業全体で、年間二千万円位の費用がかかっている。かかる経費に対し、どれだけの成果が上がり、将来目標に対しどの辺まで進んでいるのかが問われることになる。何年か経ち、計画どおりに進んでいないのではないかと、また、計画的に少し無理があったのではないかとというようなことが無いよう、きちんとその進捗を示しながら事業を進める必要がある。

- 事業達成目標の視点として、直接的なCO2削減対策だけではない環境教育での効果や企業も巻き込んで行きたいというスタンスも有るので、波及的な効果や目標を設定してはどうか。

- 山梨県北都留郡小菅村(コサゲムラ)では東京電力が、水源地保全(水源林再生)に取り組んでいる。そうした先進例を参考として、環境に関心を持ち活動しているような企業が、中央区の紹介や区がインセンティブを付けた中で活動して行く形で事業を展開して行ければ良い。

- 中央区の森は整備が進み、すばらしい場所になってきたので今後も事業を進めてほしい。また、檜原村と中央区の両方が活性化するような交流を進めて行きたい。

子どものころから自然に親しんでもらうことで、色々なものを大事にする、命の大切な

どに還っていくことになる。そういう視点も含めた構想を創りあげてほしい。

- ここで出た意見は、ふれあい村協議会にも紹介して話してもらいたい。

〈区の回答〉

中央区の森は地球温暖化対策事業として推進し、森林保全の面積を現在まで3回程広げてきた。(現在37.4ヘクタール) ふれあい村構想の中では、「植林」のできる森や親子ツアーを企画し、より多くの人に檜原村に行っていただくなど、CO2削減だけではなく、どのような人が何人位檜原村に行ったかというようなことも目標として推進していく。

本日のご意見等は、檜原村協議会に報告し議論の一つにしていく。

## 【今年度の取り組み全般に関するご意見、ご感想】

### 「中央区環境区民会議」

〈委員からの意見等〉

- 「中央区環境区民会議」は、現在、自主的・自発的な活動が十分でない。

区の様々な環境活動のためのプロジェクトチームとして、もう少し自由で自発的な活動をさせてもらいたい。

- 営業マネジメントみたいな会合が出来ると良い。せつかく基礎が出来上がっているの中で、その中で自由に発言して行きながら企画を立ち上げ、サポートして行くことも必要である。

〈区の回答〉

中央区環境区民会議は、参加者の意向を聞きながら定期的開催し、自主的・自発的な活動が出来よう進めて行く。環境情報施設なども活用してもらえよう、区はそのための支援をする。また、エコタウン構想の取り組みなどもあるので、中央区環境区民会議が機能するように行きたい。

### 「総合環境講座の開催」

〈委員からの意見等〉

- 去年は地球温暖化対策関連の講座でしたが、あまりにも省エネに偏っていた。

総合的な環境講座として、東京都環境学習リーダーも参加し、昔中央区がやっていたような楽しい講座の開催を希望する。

区民の意見を聞き、広範囲に環境問題を取り上げて環境講座を開催してほしい。出来れば区を訪れる人なども対象にすれば、もっと参加者が増え活性化出来ると思う。

〈区の回答〉

委員のご意見、最近の開催状況等参考にしながら、平成24年度の講座内容等について考えていく。